

平成23年度
私立学校初任者研修 北海道・東北地区研修会
実施報告概要

北海道・東北地区初任者研修会は、北海道及び東北各県が担当・実施しており、本年度は宮城県が担当し、仙台ガーデンパレスで開催された。3月11日の東日本大震災により仙台市内も甚大な被害に見舞われたが、宮城県私立中学高等学校連合会・松良千廣会長をはじめ運営委員の尽力により当初の予定どおり8月3日(水)から5日(金)の3日間の研修会に、75名(北海道18名、東北57名)の参加者を得た。



今回の研修会は「生涯輝く教師であり続けるために」をテーマに、4つの講演と5つのテーマ別分科会を実施した。

講義Ⅰとして福島成蹊中学高等学校・本田哲朗校長は「私学教員としてのライフプランニングー定年まで生き甲斐をもって仕事に取り組むためにー」と題し、東北の地における教育の大切さ、生徒を育てることを原点に情熱をもって「私学は自分が思えばその教育を具現化できる」との認識を持つことなど自身の教員生活の体験・目標とその取組などについて講義した。

講義Ⅱでは地元宮城教育大学・安藤明信准教授が「授業力の向上を目指して」と題し、授業力の向上のために「自分の得意なこと」「手薄なことを把握すること」の2つの観点を導入・展開してまとめることをゴールに講義を進めた。

講義Ⅲ「コーチングー創造性とやる気を引き出す0.5秒の声かけー」では国際コーチ連盟マスター認定コーチ・安海将広氏が講師となり、生徒に対する声かけについて講義した。

そして、講義Ⅳでは「私学教育の可能性ー新学習指導要領と私学教育ー」と題し、中央教育審議会副会長を務められた地元聖ウルスラ学院・梶田叡一理事長が登壇、「新しい学習指導要領の理念とは、目指すものとは何か」についての解説と私学における取組等、新任者として心得ておくべきことがらの講義がなされた。

初日には夕食を兼ねて教育懇談会が催され、講師や運営委員を交えての懇談、またこれからの教員生活の糧とすべく新任者同士の仲間作り・ネットワーク拡大に向けた交流など短いながら座学では得られない時間となった。

分科会では、教科指導、生徒指導、クラス運営、部活指導、危機管理の5つのテーマの内2つの分科会に参加し、参加者の発言を主体に各県の運営委員が助言者となり各3時間の協議及び各分科会の代表者による報告が最終日に行われた。



なお、来年度は、秋田県での開催を予定している。